

【様式1】

令和 6 年度

事務事業評価シート

記入年月日 令和 6 年 6 月 6 日

事務事業名	田沢湖活性化センター運営管理費	担当部課	田沢出張所		
予算款項目	一般 02 - 01 - 01 - 103	担当者職名	所長 千葉 光		
総合計画施策名	公共施設等マネジメントの推進	事業開始年度	H 17	R5 事務事業評価結果	未実施

1. 事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	市内外の交流による地場産業の育成や教育の振興など地域の活性化に資するため。
成果： (どのような成果を期待するか)	地元主体の地域活性化事業の推進。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	施設内の空きスペース及びグラウンド等の貸し出し。

2. 投入されたコストの確認（単位：円）

節区分	説明等	R6予算	R5決算	R4決算	R3決算
需用費	施設の運営管理に必要な消耗品費、光熱水費、修繕料	447,000	266,899	562,546	421,317
役務費	施設の運営管理に必要な通信運搬費、手数料、火災保険料	101,000	95,090	89,089	78,513
委託料	施設の運営管理に必要な各種委託料	202,000	155,188	162,888	150,788
使用料及び賃借料	施設の集落排水使用料	75,000	5,280	63,085	68,607
事業費総額・・・①		825,000	522,457	877,608	719,225
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③				
	一般財源・・・④	825,000	522,457	877,608	719,225

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	825,000	522,457	877,608	719,225
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	行政財産使用団体	単位	R5	R4	R3	R5-R4比較
区分	受益者数・・・⑤	組	6	7	6	▲ 1
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	87,076	125,373	119,871	▲ 38,296

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値(事業の動態を示すもの)	単位	R5	R4	R3	R2
施設使用（行政財産使用）団体	組	6	7	6	6
施設使用料収入	円	101,136	106,041	221,776	243,970
≪変化の理由≫ 5団体が使用料減免で空き教室等を使用。1団体から使用料を徴収していたが、その団体も令和4年度から使用スペースを半分に使用料も約半額に。令和5年2月に施設の水道が致命的な破損により使用できなくなったこともあり、令和5年度いっぱい撤退。令和6年度は使用料収入がゼロになる見込み。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R5	R4	R3	R2
≪変化の理由≫ 					

6. 今後の方向等

現在認識している課題(市民の声など)	全体的に老朽化が進行している。 施設使用者には、水道が使えない（修繕もできない）、電気系統もいつ使えなくなるかわからないため、説明と移動のお願いをしているが、山菜加工等を行っている団体は保健所の許可の関係もあり他に良い移動先が見つからず、使用継続を強く要望されている。
今後の方向性（民間代替性、近隣市町村の状況など）	全体的に老朽化が進行しており、昨年の水道の致命的な破損以外にも、施設内数か所での雨漏りや、電気系統でも根本的な改修の必要性を指摘されている。将来的な費用対効果を考慮すると多額の費用を投じての施設の安全な使用継続はできないため、施設を廃止する方向で進めている。

7. 一次評価（部課長等※担当課を除く）

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充	大規模な修繕は検討せず施設の廃止に向け、来年以降の廃止を目指す。 現在使用している各団体等には丁寧な説明をおこない、理解を得ることが必須となる。
<input type="checkbox"/> 継続	
<input type="checkbox"/> 縮小	
<input type="radio"/> 廃止	

8. 外部評価（仙北市総合政策審議会等）

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充	
<input type="checkbox"/> 継続	
<input type="checkbox"/> 縮小	
<input type="checkbox"/> 廃止	

9. 二次評価（市長、副市長）

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充	
<input type="checkbox"/> 継続	
<input type="checkbox"/> 縮小	
<input type="checkbox"/> 廃止	

【様式1】

令和 6 年度

事務事業評価シート

記入年月日 令和 6 年 6 月 6 日

事務事業名	社会福祉法人はなさき仙北補助金	担当部課	子育て推進課		
予算款項目	一般 03 - 02 - 03 - 190503	担当者職名	課長 戸嶋 雅美		
総合計画施策名	子育て支援保育の充実	事業開始年度	H 28	R5 事務事業評価結果	継続

1. 事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	市内の未就学園児が公立、私立どちらを利用しても平等に教育・保育サービスを受けることができるように、私立施設を運営している「社会福祉法人はなさき仙北」に対して不足する運営費を補助して円滑で安定した施設運営を行ってもらう。
成果： (どのような成果を期待するか)	市内の未就学園児が市立、私立どちらの教育・保育施設に入園しても平等に教育・保育サービスを受けることができ、健やかに成長することが出来る。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	幼保連携型認定こども園の経営及び地域子育て支援拠点事業を実施している法人に対し、公的給付と保育料収入では不足する経費を補うために、運営費補助金を交付する。

2. 投入されたコストの確認（単位：円）

節区分	説明等	R6予算	R5決算	R4決算	R3決算
負担金補助及び交付金	はなさき仙北補助金	365,000,000	339,392,680	236,629,348	213,344,818
事業費総額・・・①		365,000,000	339,392,680	236,629,348	213,344,818
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③				
	一般財源・・・④	365,000,000	339,392,680	236,629,348	213,344,818

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	365,000,000	339,392,680	236,629,348
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	はなさき仙北認定こども園児	単位	R5	R4	R3	R5-R4比較
区分	受益者数・・・⑤	人	408	437	315	▲ 29
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	894,608	776,642	751,204	117,966

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値(事業の動態を示すもの)	単位	R5	R4	R3	R2
園児数	人	408	437	315	357
社会福祉法人はなさき仙北運営教育・保育施設数	園	5	5	4	4
≪変化の理由≫ 年次計画により市立認定こども園が「社会福祉法人はなさき仙北」へ移譲されたことにより、園児数が増加した。 H28年度に田沢湖地区2園、R2年度に西木地区2園、R4年度に角館こども園が法人へ移譲したことにより、法人運営施設は合計5園に増加した。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R5	R4	R3	R2
≪変化の理由≫ 					

6. 今後の方向等

現在認識している課題(市民の声など)	直営施設としての運営費、管理費の歳出を減少させることが出来た反面、委託費に相当する施設型給付費が園児数に比例するため、不足する費用をこの補助金で補填している。 法人では保護者向けと職員向けの評価アンケートを毎年実施している。今後アンケート結果を提供してもらい、事業成果を表す数値として活用したい。
今後の方向性(民間代替性、近隣市町村の状況など)	今後さらに少子化が進行することによる給付費の歳入減、移譲した施設の老朽化による修繕料増加、昇給による人件費増加などにより補助金が年々増加する傾向にある。 これまでの出生数の動向から、園児増加が難しいと見込まれる小規模施設の休園などによる経営の効率化を法人と共に検討し、補助金増加割合の減少に努める。

7. 一次評価(部課長等※担当課を除く)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	はなさき仙北でとっているアンケートなどを確認しながら今後も適切な補助金交付を目標とし継続とする。 継続となったが、職員の採用内容、雇用形態、雇用計画をしっかりと立て、赤字収支の主要要因となっている、人件費削減に向け話し合いを進める必要がある。

8. 外部評価(仙北市総合政策審議会等)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	

9. 二次評価(市長、副市長)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	

【様式1】

令和 6 年度

事務事業評価シート

記入年月日 令和 6 年 6 月 21 日

事務事業名	観光宣伝費	担当部課	観光文化スポーツ部 観光課
予算款項目	一般 07 - 01 - 03 - 190502	担当者職名	主任 畠澤 史佳
総合計画施策名	安全で安心を基軸とした観光誘客態勢の整備	事業開始年度	H 18 R5 事務事業評価結果 継続

1. 事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	広告媒体において本市の観光素材をPRすることにより、認知度の向上および誘客促進を図る。
成果: (どのような成果を期待するか)	PR効果による観光客数の増加、それに伴う受入態勢の向上。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	○対費用効果に優れる広告媒体でのPR活動 ○ターゲットに応じた観光パンフレットの作成 ・パンフレット作成／刺巻水ばしろう祭りリーフレット(10,000枚)、おもむくまに(40,000部)、仙北市観光ガイドマップ(25,000部)、仙北市あきた花紀行チラシ(8,000部) ・広告／新聞広告(魁新報)、フリーペーパー(D-PRESS、道の駅旅案内東北版2024年春号)、雑誌(山と溪谷、S-Style)、デジタルサイネージ(町田駅)、ウェブ(On Trip JAL)、SNS(Instagram)

2. 投入されたコストの確認(単位:円)

節区分	説明等	R6予算	R5決算	R4決算	R3決算
報償費	仙北市観光大使イベント出演料	180,000	40,000	0	0
旅費	山の楽市ほか観光キャラバン従事 など	754,000	430,213	275,500	73,100
需用費	パンフレット印刷費、ノベルティ購入費 など	1,723,000	1,656,938	2,327,330	3,098,638
役務費	広告料 など	1,046,000	1,320,167	2,111,641	972,881
委託料	ライブカメラ配信、SNS広告 など	402,000	410,800	875,274	715,660
使用料及び賃借料	仙北市観光大使交流会会場賃借料 など	72,000	71,500	113,361	86,218
事業費総額・・・①		4,177,000	3,929,618	5,703,106	4,946,497
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③	寄附金、企業版ふるさと納税	700	5,000	0
	一般財源・・・④	4,177,000	3,928,918	5,698,106	4,946,497

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	4,177,000	3,929,618	5,703,106	4,946,497
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	観光入込み客数	単位	R5	R4	R3	R5-R4比較
区分	受益者数・・・⑤	人	3,561,994	3,117,534	2,181,868	444,460
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	1	2	2	▲ 1

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値(事業の動態を示すもの)	単位	R5	R4	R3	R2
広告実施媒体数	式	8	14	10	8
観光関連印刷物数	部	83,000	120,000	105,000	80,000
<<変化の理由>> R2、R3は新型コロナの影響から国内外の観光客が減少した影響で宣伝活動を縮小した。R4は観光客数の回復に伴い、広告展開を行った。R5は、秋田県の冬の大型観光キャンペーンのプレキャンペーンに伴い、冬季広告を重点的に行い、パンフレットについては、前年の在庫数を鑑み増刷数は少なくなった。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R5	R4	R3	R2
観光入込客数	人	3,561,994	3,117,534	2,322,369	2,181,868
公式SNSフォロワー数(X)	人	2,221	1,607	1,164	852
<<変化の理由>> 新型コロナが5類になったことに伴い、国内外の往来の増加やツアーの復活などがあり観光客数は回復傾向となり、入込み客数は対前年比114.3%となった。 公式Xは、定期的な投稿により徐々にフォロワーが増加している。					

6. 今後の方向等

現在認識している課題(市民の声など)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県や観光協会との広告宣伝における守備範囲が明確ではないため、効果的かつ効率的なPRが実施できていない。 ・広告展開において、広告を見た方が実際にどれほど訪れているか効果が見えづらい。
今後の方向性(民間代替性、近隣市町村の状況など)	<ul style="list-style-type: none"> ・60代以上のシルバー層、女性20代～40代をメインターゲットに、パンフレットや広告の展開において、年代に応じた紙媒体での効果、デジタル媒体での効果について検証していく。 ・関係機関との連携を強化し、秋田県観光DMP等を活用したデータ分析により、ターゲットやタイミング等、効果的なPRを実施していく。 ・R6は秋田県の冬の大型観光キャンペーンが展開されるため、それぞれの組織に応じて宣伝を行う媒体やターゲットの分担をとりきめる。 ・来訪者アンケートやウェブ広告など紙媒体以外の展開により、広告の効果測定を行う。

7. 一次評価(部課長等※担当課を除く)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	今後はさらなる観光客数の入込も期待できるため拡充もあり得るが、現状は継続とする。 PR方法等、内容は常に精査しながら、展開するべき。

8. 外部評価(仙北市総合政策審議会等)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	

9. 二次評価(市長、副市長)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	

【様式1】

令和 6 年度

事務事業評価シート

記入年月日 令和 6 年 6 月 7 日

事務事業名	よぶのる角館運行事業費	担当部課	まちづくり課			
予算款項目	一般 02 - 01 - 10 - 509	担当者職名	村山 大空			
総合計画施策名	公共交通機関の維持と利便性の向上	事業開始年度	R 4	R5 事務事業評価結果	継続	

1. 事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	・ Maasを活用した「角館オンデマンド交通（よぶのる角館）」を運営し、観光客及び地域住民の交通利便性向上を図る。 ・ J R 角館駅、市立角館総合病院に設置したモニターに市民バスやよぶのる角館の位置情報を提供することにより、利用者の交通利便性の向上を図る。
成果： (どのような成果を期待するか)	①公共交通施策の満足度の上昇 ②よぶのる角館の利用者数の増加
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	① J R 東日本と協働でデマンド交通「よぶのる角館」を運行するための費用を負担する。 ② 角館駅と角館総合病院でロケーションシステムを構築・運用する。（R 4 より継続運用。）

2. 投入されたコストの確認（単位：円）

節区分	説明等	R6予算	R5決算	R4決算	R3決算
委託料	市民バス・よぶのる角館ロケーションシステム運用業務委託	766,000	792,000	2,838,000	
使用料及び賃借料	J R 角館駅待合室への電子看板設置に係る建物使用料	9,000	7,854	9,822	
負担金補助及び交付金	角館オンデマンド交通よぶのる角館運行補助金	18,662,000	15,000,000	15,000,000	
事業費総額・・・①		19,437,000	15,799,854	17,847,822	0
財源内訳	特定財源				
	国庫支出金	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	0	15,000,000	
	県支出金	地方公共交通活性化チャレンジ事業費補助金	0	308,000	1,275,450
	地方債・・・②	過疎対策債（ソフト）	18,600,000		
	その他・・・③				
一般財源・・・④		837,000	15,491,854	1,572,372	0

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	19,437,000	15,491,854	1,572,372	0
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	98.1%	8.8%	#DIV/0!

4. 受益者あたりの事業費

受益者	よぶのる年間利用者	単位	R5	R4	R3	R5-R4比較
区分	受益者数・・・⑤	人	10,004	6,286		3,718
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	1,579	2,839	#DIV/0!	▲ 1,260

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値(事業の動態を示すもの)	単位	R5	R4	R3	R2
よぶのる年間利用者	人	10,004	6,286		
<<変化の理由>> 「よぶのる角館」は令和4年5月より運行開始したため、R4の実績は少なくなった。 利用方法や周知が進み、利用者数は増となった。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R5	R4	R3	R2
①行きたい時に行きたい場所に行けている人の割合	%				
②公共交通機関の維持と利便性向上に満足・やや満足の割合	%				
<<変化の理由>> いずれの指標も令和6年度版「市民意識調査」における、角館・中川在住者のデータ。 令和5年度以前は同データなしであるため、令和6年度以降の上下変動を成果数値とする。 ※令和6年度実績 ①57% ②20%					

6. 今後の方向等

現在認識している課題(市民の声など)	J R東日本とはR4～R6年の3ヶ年の運行で協定を結んでおり、令和7年度以降も両者が継続を望んでいる。また、現行では負担金額は年度毎に事業費4000万に対し、市民と観光客の利用割合により事業費の4割、上限1500万円としているが、今後の運行はJ Rと協議を進めていき、収入の底上げや負担金額の減が必須。
今後の方向性(民間代替性、近隣市町村の状況など)	R7年度以降、利用拡大による運行経費負担の見直しをしつつ、運行財源として宿泊税の一部を充てるなどを検討し、既存の市民バス(スマイルバス八割・下延)やデマンド型タクシー(白岩等)の運行範囲の統合による事業縮小と合わせ、J Rとの協議によりよぶのるの運行範囲を拡充する方向で進めていきたい。

7. 一次評価(部課長等※担当課を除く)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
○ 拡充	現状、中川地区や角館地区の利用者は一定数おり、事業の拡大あるいは縮小に関しては、ほかの事業との兼ね合いもあり、継続とする。 今後、市の交通機関全体としてより効率的な運営を行うため、意見の集約や事業計画について検討する。また、本事業に関しては民間事業者との兼ね合いもあるため、協議を密にしながら進める必要がある。
○ 継続	
○ 縮小	
○ 廃止	

8. 外部評価(仙北市総合政策審議会等)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 縮小	
○ 廃止	

9. 二次評価(市長、副市長)

妥当性の判定	妥当性の判定理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 縮小	
○ 廃止	